

## ●テーマ 考古学から「食」を考える

1. 概要 大地の中には、私たちの祖先が生活していた痕跡（遺跡）がたくさん眠っています。文字資料のない原始時代、文字資料があっても地方の庶民の生活が今ひとつ明らかでない古代・中世・・・、  
発掘調査で出土した遺構や遺物から、今年は人間にとって生活の基本である「食」をテーマに、埋蔵文化財センター職員がわかりやすく解説します。

2. 実施期間 平成21年11月7日（土）～平成22年1月23日（土）  
時間：10時00分～12時00分

3. 会場 栃木県総合文化センター 第1会議室

### 4. プログラム

回	月	日	曜	内 容	講 師
1	11	7	土	<b>縄文の森と土器の発明</b> (旧石器・縄文時代)	とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 調査第一担当 係長 塚本 師也
2	11	21	土	<b>日本人 米と出会う</b> (弥生時代)	とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 整理第一担当リーダー 藤田 典夫
3	12	5	土	<b>カマド・須恵器・箸・匙の出現</b> (古墳・飛鳥時代)	とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 整理第二担当 主査 内山 敏行
4	1	9	土	<b>塩の考古学</b> (奈良・平安時代)	とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 整理第一担当 係長 津野 仁
5	1	23	土	<b>考古学と絵巻物からみた中世の食事</b> (鎌倉・室町時代)	とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 調査第二担当リーダー 田代 隆

## アンケート結果より

受講者数／第1～5回のべ152名、回答者数／84名、回答率／55.3%

### (Q1)お住まい

宇都宮市内	50名	59.5%
宇都宮市外	30名	35.7%
県外	3名	3.6%
回答なし	1名	1.2%

### (Q2)応募した動機についてお答えください。(複数回答可)

趣味・教養のため	65名	77.4%
職業に生かすため	5名	6.0%
地域活動やボランティア活動に生かすため	14名	16.7%
自ら取り組む学習対象を探すため	15名	17.9%
余暇の活用のため	14名	16.7%
その他	6名	7.1%
回答なし	2名	2.4%

### (Q3)1講座あたりの回数(5回)についてお答えください。

適当だった	59名	70.2%
多かった	1名	1.2%
少なかった	7名	8.3%
回答なし	17名	20.2%

### (Q4)講座全体を通しての満足度についてお答えください。

満足できた	34名	40.5%
概ね満足できた	32名	38.1%
あまり満足できなかった	3名	3.6%
満足できなかった	3名	3.6%
回答なし	12名	14.3%

### 〈御意見〉

- ・参加人数が多く、講師とスライドの距離が後ろ座席になるとあまりにも遠く、講座への集中力が十分に発揮されない。車座のような少人数の温か味のある講義で、30分ごとに質問応答できるような雰囲気してほしい。
- ・古代人の塩体験と体験料理の作り方のワークショップ。各専門家のコラボレーションなどやるともっと楽しくなる。一緒に現場に行くのもよい。
- ・考古学という一面からのみであり、さらに“食”という総合的な横断的な見方が加わると、日本人の“食”の源が理解でき、現在の西洋食中心とも言える状況の見直しにも繋げる事が出来るのではないのでしょうか。日本人の健康の為に医療削減の為に。
- ・今、栃木県では「食の回廊」づくりをマップ化して分かりやすく栃木のブランド力アップを目指しているが、「考古学の跡地の回廊」、「氷の回廊」、「森の回廊」、「散策コースの回廊」、「T史めぐりの回廊」、「寺社の回廊」、「史跡(西行)の回廊」、「サイクリングロードの回廊」、クロスオーバーでネットワークの輪を広げるテーマを考えてほしい。更に、「塩の道(回廊)」、「米の発生地源流と海の道」、「絹のシルクロードの回廊(街道)」、文明の起こりから学ぶこと、欧米は麦、アジアは米。なぜこのような事が起こったか、というように更に踏み込んでみる見方まで発展させてほしい。
- ・来年度実施するとしたら平日の午後(平成8年度のように)やって欲しいです。土曜日の午前は出掛けてくるのも遠方で冬場は大変だったし、私の市の方でも土曜日にはいろいろな催し物があって参加できないのです。出来れば平日の午後開催されるようお願いしたいです。